

平成30年度 学校法人増田学園 事業活動報告書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

I 法人の概要

■法人本部の所在地

〒260-0006 千葉県千葉市中央区道場北1-17-6

■施設等の状況

①土地所有面積 28,643.59 m²

内訳： 本部（高校）（21,168.63 m²）
専門学校（4,597.94 m²）
聖こども園（2,877.02 m²）

②建物面積 11,294.528 m²

内訳： 本部（高校）（6,441.62 m²）
専門学校（3,085.758 m²）
聖こども園（1,767.15 m²）

(1) 沿革

昭和22年	4月	千葉洋裁学院創立（千葉市中央区椿森）
昭和32年	1月	学校法人増田学園認可 理事長・学園長に増田うめ就任
昭和39年	11月	千葉女子専門学園と改称
昭和42年	4月	校舎新築移転（千葉市中央区道場北）
昭和44年	4月	保育科開設（保母養成課程）
昭和45年	4月	保育科に幼稚園教員養成課程を開設
昭和48年	4月	千葉女子専門学園附属幼稚園設置認可（千葉市美浜区高洲）
昭和51年	4月	千葉女子専門学校及び千葉女子専門学校附属幼稚園と改称
昭和54年	4月	千葉聖心高等学校設置認可（全日制課程普通科）
昭和62年	4月	東館校舎増築
平成20年	3月	校舎移転（現在地）
平成20年	4月	2代目学校法人増田学園長に増田良子就任
平成20年	11月	増田学園校舎改修落成記念式典挙行
平成24年	4月	千葉女子専門学校附属ひじり保育園開園
平成27年	3月	千葉女子専門学校附属聖幼稚園廃園
平成27年	4月	幼保連携型認定こども園 千葉女子専門学校附属聖こども園設置認可
平成29年	4月	千葉女子専門学校 文部科学大臣から「職業実践専門課程」の認定

(2) 建学の精神

- 聖心 清らかな心で他者を思いやること
- 努力 目標の実現に向け何事にも真剣に取り組むこと
- 奉仕 自ら進んで社会に貢献すること

【学祖の意志（信念）】：私の学校の校訓の「努力、奉仕の心に徹せよ」は父の教訓を基として生まれたのであるが、道徳、人間形成の道においては昔も今日も変わりのある筈はなく、むしろ今の社会においてこそ、道徳が必要であると確信している。それ故に、私は私なりに時代に即応した道徳、人間形成の教育を説くことに私の生涯を捧げていきたいと、深く心に決めている。 —増田うめ著「吾が愛の教育9Pより」—

(3) 歴代理事長・学園長

【理事長】 初代理事長（財団法人含む） 増田 うめ（昭和26年～昭和34年）
 第2代理事長 増田 清（昭和35年～昭和59年）
 第3代理事長 増田 浩（昭和60年～平成16年）
 第4代理事長 増田 和人（平成17年～ ）

【学園長】 初代学園長 増田 うめ（昭和26年～平成 8年）
 第2代学園長 増田 良子（平成20年～ ）

(4) 設置する学校名及び所在地

学校名	所在地
千葉女子専門学校	千葉市中央区道場北1-21-21
千葉聖心高等学校	千葉市中央区道場北1-17-6
幼保連携型認定こども園 千葉女子専門学校附属聖こども園	千葉市美浜区高洲2-3-24

(5) 学生生徒数等（平成31年3月31日現在）

名称	学科	募集定員		平成30年4月1日現在		平成31年3月31日現在			
				人数	計	人数	計		
千葉女子専門学校	保育科 (女子)	1年	100	83(9)	141(16)	73(9)	129(14)		
		2年	100	58(7)		56(5)			
千葉聖心高等学校	全日制 普通科 (女子)	1年	200	194	458	184	436		
		2年	200	149		138			
		3年	200	115		114			
千葉女子専門学校 附属聖こども園	保育部	0歳	6	30	6	30	6	172	
		1歳	9		9		9		
		2歳	15		15		15		
	幼稚舎	3歳	1号	22	42	20	48	22	46
			2号	20		28		24	
		4歳	1号	22	42	17	48	17	47
			2号	20		31		30	
		5歳	1号	22	42	17	43	15	49
			2号	20		26		34	
	※ (1) こども園乳幼児の区分				(2) 高校の定数		(3) 専門学校		
1号認定児（保育を必要としない3歳～5歳児）				180名（推薦・併願等）		() は訓練生			
2号認定児（保育を必要とする 3歳～5歳児）				20名（一般）					
3号認定児（保育を必要とする 0歳～2歳児）				200名（合計）					

(6) 教職員数（平成31年3月31日現在）

区分	本部		千葉女子専門学校		千葉聖心高等学校		千葉女子専門学校附属聖こども園		合計		
	本年度 4/1	本年度 3/31	本年度 4/1	本年度 3/31	本年度 4/1	本年度 3/31	本年度 4/1	本年度 3/31	本年度 4/1	本年度 3/31	
教員	常勤	0	0	11	11	29	29	24	24	64	64
	非常勤	0	0	20	20	9	9	9	10	38	39
職員	常勤	6(1)	6(1)	4	4	3(2)	3(2)	2	2	15 (3)	15 (3)
	非常勤	2(2)	2(2)	4	4	0	0	2	2	8 (2)	8 (2)
合計	8(3)	8(3)	39	39	41(2)	41(2)	37	38	125 (5)	126 (5)	

注記 ・常勤職員（正規職員の勤務時間と同等の勤務する者を含む）、非常勤職員（常勤職員以外の者）・（ ）内は兼務職員の内数

(7) 法人役員 の 状 況 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

① 理事 (寄附行為規定 6 名～8 名)

- | | | |
|---|-------|---------------------------|
| 1 | 増田 和人 | 理事長 |
| 2 | 山岸 信和 | 副理事長 |
| 3 | 増田 良子 | 法人学園長 (千葉女子専門学校長) |
| 4 | 星野 和彦 | 元千葉聖心高等学校長、元県立高等学校長 |
| 5 | 足立 叡 | 元大学長・元大学教授、元千葉女子専門学校非常勤講師 |
| 6 | 前嶋 薫 | 元株式会社監査役、元株式会社取締役社長、元銀行役員 |
| 7 | 三浦 勤治 | 新千葉聖心高等学校長、前県立高等学校長 |

② 監事 (寄附行為規定 2 名)

- | | | |
|---|-------|------------------------|
| 1 | 澁谷 正 | 元千葉聖心高等学校長、元県立高等学校長 |
| 2 | 藍原 誠壽 | 元大学AO入試センター教授、元県立高等学校長 |

③ 評議員 (寄附行為規定 13 名～17 名)

- | | | |
|----|--------|--------------------|
| 1 | 増田 良子 | (寄附行為第 2 4 条第 1 号) |
| 2 | 早坂 恵子 | (寄附行為第 2 4 条第 2 号) |
| 3 | 日暮 さつき | (寄附行為第 2 4 条第 2 号) |
| 4 | 増岡 喜和子 | (寄附行為第 2 4 条第 2 号) |
| 5 | 南波 省吾 | (寄附行為第 2 4 条第 2 号) |
| 6 | 千葉 良夫 | (寄附行為第 2 4 条第 2 号) |
| 7 | 増淵 恵理子 | (寄附行為第 2 4 条第 3 号) |
| 8 | 星野 和彦 | (寄附行為第 2 4 条第 4 号) |
| 9 | 三浦 勤治 | (寄附行為第 2 4 条第 4 号) |
| 10 | 龍田 佳伸 | (寄附行為第 2 4 条第 5 号) |
| 11 | 山内 愛 | (寄附行為第 2 4 条第 5 号) |
| 12 | 中村 伸子 | (寄附行為第 2 4 条第 6 号) |
| 13 | 増田 和人 | (寄附行為第 2 4 条第 6 号) |
| 14 | 山岸 信和 | (寄附行為第 2 4 条第 6 号) |

II 平成 30 年度 事業報告の概要

—はじめに—

昭和 22 年創立以来、70 有余年が立つ。「聖心・努力・奉仕」を建学の精神とし、一貫して女性の自立、活躍、幸せ、そして人間形成をめざした教育を推進してきた。

その間、時代の流れや社会の変化に翻弄され、また、後押しされながら今日に至っている。現在、学園では 2 校 1 園を運営しているが、それぞれに職員の真摯な取り組みと、保護者や子どもたちの信頼、地域の人々の支えなどによって発展を遂げてきたと自負している。しかしながら、問題や課題も山積しているのも事実である。少子高齢社会にあって、学生生徒等の確保の問題や、新教育課程の実施に伴う教育の質的向上への取り組み、そして校舎や体育館等施設設備の老朽化対策、働き方改革としての教員の学校での過ごし方や部活動の在り方の見直しなどである。これらの諸課題等に学園・学校が一丸となって取り組んでいくことが責務であり、もって、今後の学生生徒等の教育を受ける権利を保障するものであると確信している。

以下、平成 30 年度の 2 校 1 園の取り組みと諸課題等についての概要であるが、専門学校では、魅力あふれる保育者の育成を目的として「保育科」を設置し、高校では、「進学コース」「総合コース」「こども保育コース」と、自分の進路を考えながら学習できるようにコースを設けている。また、こども園についても、こども園としての機能を十分に生かしながら保育活動を展開し、それぞれの計画的な事業活動を推進している。

(1) 千葉女子専門学校

学祖の意志を継承し、戦後の復興期から女性の自立・幸せ、及び人間形成をめざした教育を実践してきた。洋裁をはじめとする服飾技術と心の教育を柱として始まり72年が経つ。

その間、時代の要請と共に専門学校は、幼児教育・保育の分野へと転換を図り、昭和44年4月に保育科を開設し保母養成課程（現保育士養成課程）を、昭和45年には幼稚園教諭養成課程をそれぞれ設置してきた。魅力あふれる保育者の養成をめざして50年有余が経過するが、卒業生もおよそ6,700名を超え、幼児教育・保育等の中枢で活躍している。

一方、昭和48年4月には専門学校附属の聖幼稚園、平成20年4月には同ひじり保育園、平成27年4月には二つの園を統合して、千葉市内では最初の幼保連携型こども園、聖こども園を開園し、幼児教育・保育の実践ができるように環境を整え、今日に至っている。

【教育目標】

- 本学園の建学の精神である「聖心・努力・奉仕」に基づき、豊かな感性と表現力をもった保育者を育成する。
- 幼稚園教諭・保育士養成校としての長年の伝統を生かし、乳幼児教育をライフワークとし日々研鑽・成長する保育者を育成する。
- きめ細かな教育によって、個々の学生の資質や個性を十分に伸ばすことに重点を置く。

【質の向上・充実】

- 授業に対する学生の意見等を聞くなどしながら、更に分かりやすい授業の展開ができるように、その改善に努めている。また、教員自身の研究と自己研鑽を奨励し、指導内容と共に指導力の向上を図っている。

【学習環境の整備充実】

- 教室の学生用机・椅子を、木製の長机から個別のメモ付き椅子に更新。
- 図書整備のための移動式書庫を設置。

【広報活動の充実強化】

- 高校訪問等の実施
18歳人口の減少と、一方で、保育士養成校の増加に伴い、入学者の獲得は厳しい状況であるが、県内の高等学校を中心に、訪問や進路ガイダンス等に積極的に参加し、本学の良さ、魅力をアピールしている。
- オープンキャンパスの開催
年10回実施し、体験講座（工作遊び、手遊び、音楽表現など）や、学校概要（教育課程、実習、就職など）、入試要項の説明、校内見学などを実施。

【現場に直結した実習指導の充実】

- 千葉女子専門学校附属聖こども園のほか、幼稚園・保育園、児童養護施設等のご協力をいただきながら、教育実習及び保育実習の充実を図っている。

【就職支援活動】

- クラス担任制によって、学生と教師がコミュニケーションをとり、何でも相談できる環境づくり、また、就職担当職員とともにきめ細かな就職指導やサポートを組みながらその支援活動を実施している。
- 就職の決め手となる学生の良い面をひき出すための「面接指導」は年3回実施している。また、1学年を対象として、実際の面接に即した多様なシチュエーションを想定して実施している。
- 「就職活動体験報告会」の中で、就職の決まった2年生が、自身の活動経験をもとに1年生にアドバイスをするなど、就職活動の参考となるようにしている。
- 公立の幼稚園・保育所等への就職に向けて、「公務員講座」を実施している。
一般教養、小論文、面接指導を行い、また、模擬試験を実施して希望が遂げられるように指導している。

【学校行事】

○近隣の幼稚園児や地域の方々を招いて、7月には「七夕祭り」や11月には「学園祭」を実施している。各種の行事をとおして、学生の自主性（計画力、実行力など）や、保育者としての素養を育てている。

【高校・こども園との連携強化】

○高校の「こども保育コース」を専攻している生徒への学習支援や保育検定実施時の協働作業時の職員の派遣、一方で、調理実習や体育実技の授業の際の施設設備等の借用のお願いや、行事開催にあたっての生徒の参加や協力等の連携を図っている。

○こども園については、学生の教育・保育の実習指導を通して、また、こどもたちには学園祭の見学や七夕まつりでの交流という形で連携強化を図っている。

【諸課題等】

○これまでの様々な運営上の諸課題とともに、再課程及び学則変更等に伴うカリキュラムやシラバス等の適切な運用と、教員研修体制の更なる充実を図り、質の高い授業内容を学生に提供することを次年度への優先課題として取り組んでいきたい。

（2）千葉聖心高等学校

わが国における義務教育修了者の高等学校進学率は、都道府県間の開きはあったものの、高度経済成長とともに、昭和45年代以降には平均70%台に伸びていた。そんな中で、当時の文部省は私立高校に増加人員の40%を受入れることを求めていた。このような背景にあって当学園の高等学校設立の契機の一つとなっはいるが、それ以上に学祖の一貫した女子教育への情熱があったからである。昭和54年4月に千葉聖心高等学校（全日制課程普通科）を立ち上げ、女性の自立と幸せ、道徳と人間形成をめざした教育実践を展開し現在に至っている。

「進学コース」、「総合コース」とともに、平成19年から「こども保育コース」を設けて、千葉女子専門学校及び聖こども園との連携を図りながら保育者の養成にも寄与している。

【教育目標】

建学の精神に基づき、激動する21世紀の社会を逞しく生きる個性豊かな女性の育成をめざします。

- （1）確かな学力を身に付けた行動力のある女性の育成
- （2）心豊かな礼儀正しい自立した女性の育成
- （3）学校・家庭・地域の連携による社会に貢献できる女性の育成

【学校生活面での状況】

○全体としては、落ち着いた学校生活を送っている生徒ばかりである。

一方、周囲の人への配慮に欠けた言動がないように、また、SNSによる問題が発生しないようにと注意喚起や講習会を開催するなど、指導の強化を図っている。

【学習指導の充実強化】

○聖心高校の生徒への指導の中心は「基礎基本の定着」であるため、分かりやすく丁寧な授業の組み立てと展開を進めている。授業のほかに、学び直しであるJITAN学習、個別指導などをとおして基礎学力の底上げを図っている。また、短時間で出来る課題に取り組みせ、家庭での学習習慣が身に付くように指導している。

○特に、アクティブラーニングを積極的に採り入れて、生徒が自ら、主体的で、能動的に学べる授業展開を推進していて、茨城県立並木中等教育学校長の中島博司先生をお招きして、授業の実践研修を行うなど、その実践に努めている。

○長期休業期間を利用した集中講座の開催や各種検定試験への挑戦を促し、学力の向上に努めている。

【進路指導の充実】

○保育とともに、看護系・医療系の進学希望者受験対策の強化を図っている。

○大学や短大への進学指導については、夏期集中講座や個別指導をとおして対策を講じているが、生徒には積極的に大学訪問等の参加や体験をしながら自分に合った選択ができ

るように指導している。

- 就職活動については、早くから進路に目をむけていけるような、指導、対策を講じながら、キャリア教育の一層の充実を図っている。

【行事への取り組み】

- 4月の始業式・入学式から翌年3月の終業式・卒業式まで、たくさんの行事を実施し、いずれも、大きな事故やケガもなく無事に終わることができた。
「ゴーゴー・ウォーキング」や「校外学習」、「体育祭」や「球技大会」、「文化祭」や「修学旅行」をとおしての「体験」や「学び」が得られたと考えている。

【部活動等の状況】

- 部活動は、生徒にとっては、仲間と苦楽を共にしながら、自分自身の心身を成長させることのできる時間・空間であることから重要な教育活動の一環である。
運動系9部活動、文化系14部活動が、それぞれ積極的に取り組んでいて、ソフトテニス部・バトミントン部や吹奏楽部は各種大会において好成績を収めている。
- ボランティア活動も、「未成年者飲酒防止キャンペーン」に17年間連続参加するなどしながら、その活動の意義、大切さなどについて学んでいる。

【広報活動の取り組み】

- 入学者の獲得のための広報活動については、平成30年度は当初の目標である160名を上回る174名の入学者の確保を達成することができた。
- 地区別では、千葉市内からの入学者が最も多く、全体の約半数となっている。次いで、船橋・習志野、市川、市原と、総武線沿線に集中している。
- 体験入学、学校説明会に参加した者のうち59%が本校を受験している実態から、各種説明会の更なる充実を図り、また、中学校訪問や外部説明会の積極的な参加を含め、更に本校を知ってもらい、足を運んでもらえるように努める。
- 県立高校も、市川南高校や四街道北高校に保育基礎コースを設置又は設置予定であり、ますます競合いが激しくなる中で、令和2年度にむけた生徒の獲得目標を160名として取り組んでいく。

【女専・こども園との連携強化】

- 千葉女子専門学校は系列校であり、卒業生の進学先として重要な位置づけにある。
また、普段の学習活動における相互協力の関係にあり、職員間の意思疎通と連携強化を図りながら推進している。
- こども園においては、「こども保育コース」の生徒の保育実習で指導を受けている。年間計画の中で実施のための相互の調整を図りながら円滑に進めている。

【環境整備等】

- 6月にM6弱の「大阪北部地震」が発生し、ブロック塀の倒壊による小学生の女の子の不幸な死亡事故は記憶に新しいが、それ以来、ブロック塀の安全性が問われ、当学園も自主点検や専門業者の調査を実施している。その結果、聖心高校東側にある体育館裏のブロック塀約70mが建築基準法の基準を満たしていないことが判明したため、国等の補助金措置を受けながら改修工事をするに至っている。
- 入学者の増により、教室棟3Fと4Fにあるワークスペースを普通教室に改修した。

【その他課題等】

- 生徒の学習環境の改善の一環として、校舎や体育館が40年以上経過しており、老朽化は歪めない。近い将来において改修或いは建替等が必要と認識している。
- 図書整備については、生徒の学習支援の充実を図る観点から、図書の分類整理、書架の配置の工夫等を少しずつ行っているが、生徒のニーズや社会変化に対応した図書の充実についても取り組んでいきたいと考えている。
- コンピュータやアイ・パッドといった情報機器を活用した情報教育、つまり、教科指導におけるICT活用や校務の情報化について、その充実強化に努める必要がある。

(3) 千葉女子専門学校附属聖こども園

これからの日本及びグローバルな世界で力強く生き抜く力、社会に貢献できる人材の育成は、幼児期からの教育が大切であるとし、こどもたちの感性豊かな心と体を育み、社会の変化とニーズに呼応した人間形成をめざすことを目的として、昭和48年4月に千葉女子専門学校附属聖幼稚園を、平成20年4月には同ひじり保育園を開園した。その後、平成27年4月には二つの園を統合して、千葉市内では最初の幼保連携型こども園、聖こども園を開園して今日に至っている。

また、聖こども園は、幼稚園教諭、保育士の養成機関としての千葉女子専門学校の学生が幼児教育・保育の実践ができる場としても重要な位置づけとなっている。

【教育・保育目標】

- (1) 教育・保育方針 「かしこく、たくましく、心健やかな子」
- (2) 教育・保育目標： ①学びの芽を育て、生涯学習の基礎を培う。
②自己を発揮し、たくましい体と優しさを身につける。
③互いの気持ちを伝え合い、情操豊かな心を育てる。
- (3) 個別目標 幼稚園 — ①しなやかな心と体の発達を促す。
②協調性を養う。
③「集中力」と「達成感」を身につける。
④「いのち」の大切さを知る。
- 保育部 — ①信頼感や思いやりの心を育てる。
②基本的な生活習慣の自立を養う。
③運動機能の基礎を身に付け健康な体を作る。
④遊びを通し、想像力/自主性/責任感などを育む。

【保育の展開】

教育・保育要領に沿った、それぞれの領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）のねらいや内容、並びに年齢や発達段階に応じた指導計画等を組み立てながら日々の教育・保育活動に取り組んでいる。

- ① 0歳から2歳までの保育は、年齢別にクラス編成をしているが、活動そのものは0歳児と1歳児については一緒に活動することが多い。
- ② 3歳から5歳までの園児に対する合同保育（9時～14時位）については、1号・2号の分け隔てなくスムーズな園児活動が定着している。教室では、工作遊び、手遊び、音楽表現などの活動をとおして情操教育の充実に努めている。
- ③ 「一時預かり」については、朝7時～8時30分、夕方14時30分～20時の時間を有料（通常1時間当たり200円、30分100円、時間帯により割引有り）で預かる体制をとっている。また、「バス預かり」のほか、2号認定の子の朝夕の預かり保育は午後6時を限度に、それ以降は、「延長保育（有料1時間当たり3歳未満3,000円、3歳以上1,900円）」として20時まで行っている。延長保育は全園児が対象となるが、平成30年度の利用者は24名であった。
- ④ 2歳児を対象とし、こどもだけを対象としたもの、親子を対象としたもの、開催曜日や回数の違いなど、運営形態は異なるが、「いちご組教室」「カンガルー教室」、未就園児の「親子教室」として各種教室を開催している。これらは、子育て支援を目的として実施しているが、園児の獲得に重要な位置づけにもなっている。

【各種行事の取り組み】

- 子どもの成長・発達にとっては、行事は欠くことのできない保育活動の一つである。
- 子どもの成長の節目をお祝いする行事（入園式・卒園式・誕生会）や、伝統的な行事（ひな祭り・七夕祭り・豆まき・餅つき）、子どもの日頃の成長、成果を発表する行事（運動会・お遊戯会・発表会・作品展）、体験や活動の幅を広げる行事（遠足・お泊り保育・芋

ほり)、親子・保護者同士の交流を深める行事（保育参観・親子遠足）など、実施する行事の目的や意義を明確に捉えながら年間計画を立てている。

○行事によっては、保護者会のお手伝いや、専門学校の学生、聖心高校生のお手伝いをいただきながら実施している。

【幼稚舎・保育部の連携強化】

○保育部と幼稚舎との全体で行う会議や行事、また、職員同士の関わりが増えていることから、今まで以上に意思の疎通や共通理解を図りながら保育活動を進めていく必要がある。

【安全・安心な保育環境の整備】

○園児が安心して過ごせる保育環境を確保することは当然の責務である。怪我や事故が起きないようにするための予防策に万全を期するとともに、仮に起きてしまった場合の適切な対応策を明確にしておかなければならない。園内外の日頃の安全点検にしっかりと取り組み、常に実態把握をしておく必要がある。

○滑り台や庇を支える支柱に園児が衝突した場合などに、衝撃を和らげる防止策として支柱に発砲性のシートを巻き付ける措置をした。また、腐食防止のためのテラスの塗装、消防署の指摘による非常連絡装置の改善を行った。

【女専・高校との連携強化】

○専門学校及び聖心高校の「こども保育コース」の学生・生徒に対する保育実習の受入れを行っている。子どもたちもお姉さん先生との交流を楽しみにしており、また、職員も新鮮な刺激や気づきがあり、相互の交流による保育の向上が期待できると捉えている。

【その他諸課題等】

○職員にとっての職場環境も、職員の増員、パート職員の従事時間の延長、シフトの組み方の工夫等で、少しずつ、改善されてきた。

○園内外の研修や講習会等に積極的に参加し、保育の質の向上に繋げていけるようにする。

○子育てに不安を抱えている保護者が多いことから、その支援活動に取り組んでいく必要がある。